



**JASWHS** 公益社団法人 日本医療社会福祉協会  
Japanese Association of Social Workers in Health Services

平成 29 年 1 月 30 日 第 6 巻 (第 10 号)

発行：東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

1. 石巻での災害支援活動を振り返って
2. 活動報告書
3. 災害支援チームからのお知らせ
4. 災害支援ニュース発行のお知らせ
5. あとがき

**石巻現地職員を募集しています！！**

詳細は協会ホームページ「石巻・現地職員募集中」からご覧ください。

**石巻市応急仮設住宅現況報告**

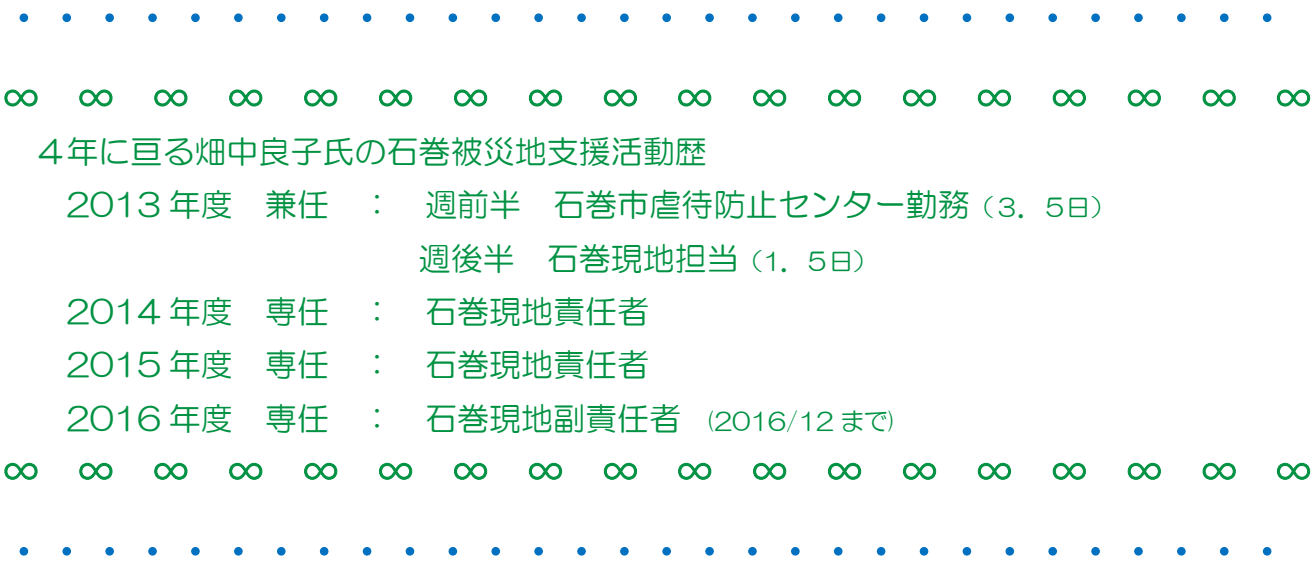
(石巻市 平成 29 年 1 月 1 日現在 応急仮設住宅一覧より抜粋)

応急仮設住宅入居状況 (応急仮設住宅集約化進行中)

入居戸数 2,675 戸

入居人数 5,717 人

# 1. 石巻での災害支援活動を振り返って



## 4年に亘る畑中良子氏の石巻被災地支援活動歴

- 2013年度 兼任 : 週前半 石巻市虐待防止センター勤務 (3. 5日)  
週後半 石巻現地担当 (1. 5日)
- 2014年度 専任 : 石巻現地責任者
- 2015年度 専任 : 石巻現地責任者
- 2016年度 専任 : 石巻現地副責任者 (2016/12まで)

## 元災害支援チーム

畑中 良子



2013年4月1日に石巻現地スタッフとして着任し、3年9ヶ月の時間が経ちました。今回、石巻を離れる事となりましたので、活動を振り返りたいと思います。

2011年3月11日(金)14時46分、私は当時、勤務していた病院でこの時間を迎えました。最初、地震の揺れとは気付かず、そのまま仕事を続けていましたが、揺れが長く、テレビをつけると仙台方面の様子が映されていました。その地震や津波の様子が現実のものとは思えず、ただただ、茫然とテレビ画面を見ていた事を覚えています。その後、私が生活している地区では地震の影響はほぼなく、当日から日常生活に戻りました。

発災から4ヶ月後、石巻に初めて来ました。それまで東北地方へ来た事がなかったので、新幹線を乗り継ぎ、古川駅(当時は古川駅の近くに協力員の宿舎があったため)までの距離はとても長かったです。古川駅近くの宿舎から遊楽館までは車で1時間以上かかり、途中の道は地震の影響で地盤沈下があり、走行するにも細心の注意が必要な状況でした。私はこの活動期間中に、亀田総合病院の小野沢先生と一緒する機会があり、石巻の中心部や沿岸部を案内してもらいました。道路は何とか車が通行できる状況ではありましたが、道路脇には瓦礫が積み上がり、沿岸部では腐敗した魚の匂いが充満している状況でした。信号機も復旧しておらず、全国から応援で来られている警察官が交差点に立ち、手旗信号で交通誘導をされていました。遊楽館では仮設への入居が決まらない方が約10名残っておられました。私はそこで介護保険サービスの利用についてのアセスメント、SSB(ショートステイベース: 現、石巻ロイヤル病院の4階)の入居者への面談等を行いました。この活動は病院の退所

支援と似ていました。しかし、避難所などで住民さんから話を伺っても方言が分からなかったり、地名が分からなかったりで、「自分はここで支援ができていいのか？」という引っかかりを持ったまま大阪へ戻りました。大阪に戻って、日常業務を行っているうちも石巻の事が気になり、「今度は行くなら、少し長い期間で活動をしよう。」と決めました。それはソーシャルワークを実践する上で、その土地の文化を知る事が大切だと考えたからです。そして、2013年3月末で当時の勤務先を退職し、4月から石巻での支援活動を開始しました。

大震災から2年が経ち、住民さんが仮設住宅での生活に一旦落ち着かれたような印象を持ちました。2013年度、当協会の現地スタッフは責任者1名が協会活動を専任で行い、1名が石巻市社会福祉協議会へ出向、そして私は石巻市福祉部 虐待防止センターと当協会の活動の兼務でした。協会活動は在宅被災者世帯を中心に訪問活動を行っていました。訪問活動を重ね、石巻の言葉になれ、土地勘を養い、文化に触れていきました。虐待防止センターで一緒になった職員の方に「ここ（東北）の人たちは言葉にしなく、我慢する事が多い。言わないからと言って、思っていない（考えていない、感じていないも含まれると思うが）わけではないから。」と言われた事はすごく印象に残っています。私たちソーシャルワーカーは常に相手にどのように伝わるか、どう伝えるかを考えて仕事をしていますが、ここでは特に気をつけないといけないと強く感じました。

この年の夏から復興公営住宅への事前登録が始まり、全国の協力員さんにもたくさん石巻にきていただきました。たくさんの協力員さんと一緒に石巻のフィールドワークをし、訪問活動をする中で、震災後の被害の大きさ、人々が先の生活に大きな不安を感じている事、自然災害という突然の出来事から生活が一変した事、これまでの生活の中で大切にしていた事などを知ることができました。私は大阪の田舎の地域で生まれたため、地域との繋がり、生まれた場所の風習を大切にしたい気持ち、隣町との確執など理解できる部分が多くありました。「今まで誰にも話せなかった。」という気持ちを吐露される方もいらっしゃいました。その気持ちを受け止め、支援をしていくにはかなりエネルギーが必要だったと今は振り返ります。

2014年度になり、現地スタッフ3名は全て協会活動専従となりました。これまでの活動の継続に加えて、健康調査のフォロー調査や復興住宅への移行支援が増えました。またこの時期は震災から3年が経ち、マンパワーや経済的課題から現地を去るボランティア団体が多くありました。これまでは『何かをする』支援が多くありましたが、『(自身で)出来るようになる支援』が必要な時期になっていました。支援者の会議ではボランティア団体、NPO団体と現状把握と必要な事は何かについて話し込む事も多くありました。自立再建する力のある人から仮設を退去し、力(経済的、身体的)のない人、再建に関心のない人が仮設に残るといった差が出始めていました。

被災地での活動では被災者の支援制度等が短期間で変わり、それを理解し、必要な方へ情報提供する事が求められていました。2014年度から復興住宅への移行支援が本格化し、「終

の棲家」をどこにするのかを決めていかなければなりません。決められた期間内に決められた選択肢の中で、選んでいく事、また、希望のところには必ず行けるわけではない事等があり、選ぶ事、決める事に疲弊されていく方がいました。一緒に今後の生活の場所を考えていくのですが、「この人にとって、本当にこの選択肢で良かったのか？」と悩む事もありました。その時は事務所で仲間たちと話し合いながら、アドバイスをもらったり、背中を押してもらったりしながら、業務に取り組んでいました。

また、この年は仮設を担当する石巻市福祉部 生活再建支援課と協働した事が大きな成果だと思えます。笹岡統括の提案で実現したのですが、われわれソーシャルワーカーが週に3回、生活再建支援課に机を置き、行政職の方と一緒に住民からの相談に対応しました。この積み重ねが仮設からのスムーズな退去には専門職（ソーシャルワーカー）が有効だと理解してもらい、2015年度からの被災者生活自立支援事業へと繋がりました。

2015年度は2014年度のメンバーで活動を継続しました。2015年度は復興住宅への移行支援の中で「引っ越し」の支援が増えました。引っ越し前後の手続きが分からない、引っ越しまでの段取りが分からないという高齢者が多く、一つ一つの手続きを一緒に行いました。新しい環境で生活していく不安や仮設で仲良くなった人たちと別れたくないという思い、やっと定住できる場所に移れた安心感など聞かれる中で、生活場所を変える事はすごくストレスになり、次の環境に慣れるまで時間がかかり、次の生活に繋がるまでの支援が重要だと感じました。これは病院から在宅へ戻る退院支援と近いのかもしれませんが、次の場所に移ったら終わりではなく、その先の支援に繋げることで生活を早く安定させてもらう事ができるのではないかと思います。

現地ではその時、その都度、求められている事に対してどう対応していくか？実践していくかを常に考えて活動をしていました。日々、色んな事が起こり、毎月のように新しい業務が加わり、時間があっという間に過ぎていきました。気持ちが休まる事がなく、楽しい事ばかりだけではありませんでした。

発災後から現在まで、現地常駐のソーシャルワーカーと全国からの協力員さんが継続して活動できた事は大きな成果だと思えます。石巻市をはじめ、他団体からソーシャルワーカーが認識され、ケースへの介入依頼があり、課題解決が図れた事は短期間の滞在ではかなわなかった事だと思えます。地道に地域のニーズに合わせて活動をしたソーシャルワーカーが途切れることなく居た事がこの結果を生んだのだと思えます。

2013年の夏から（公社）日本医療社会福祉協会災害対策本部のFacebookの更新を担当しました。私はそれまでは大阪で仕事をしていたのですが、マスコミなどがニュースで被災地の現状について取り上げる事は減っていました。人は情報がなくなると関心がなくなり、関心がなくなると行動しなくなるのではないかと思います。石巻に来て欲しい、石巻の現状を知ってもらいたいという事が前提でしたが、そこから自分たちの地域でできる事を考えてもらえたり、行動してもらえると良いなあという気持ちもあり、更新を続けていました。私

が退職した後も現任者が継続してくれているので、是非、覗いてみてください。

最近、「災害ソーシャルワーク」という言葉を耳にする事が増えました。病院でも施設でも地域でも目の前の方がどのような生活を送ってきたかを知り、今後、どのように生きていきたいかを実現するための支援をどのように行っていくのか？という点では病院でも施設でも地域でも被災地でも変わりはないと思います。その場のニーズにどう応えていくか？という事の柔軟性、即効性は重要になるかもしれませんが、基本的姿勢などは同じだと思います。

これまで私が現地で活動できたのは一緒に現地で働いてくれた仲間、本部からのサポートメンバー、全国からの協力員さんの支えがあったからだと思っています。本当にありがとうございました。そして、家族にも感謝したいと思います。現地活動からは離れますが、地元に戻り、活動から得た経験を活かして、ここで出来る事、ここから出来る事を考え中です。

全国の顔見知りとなったソーシャルワーカーさん、何かの折は協力依頼しますので、その時はよろしくお願いします。協力員の募集は2016年11月で終了しましたが、石巻現地活動は今も継続中です。活動に関心を持ってもらい、ご自分の地域で出来る事、被災地（東北に限らず）へ向けてできる事などを考え、行動してもらえると嬉しいです。

これまで本当にありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いします。



## 2. 活動報告書



石巻ロイヤル病院

宮城県 春山 瑞生

活動期間：2016年12月21日

今回の[男のあそぼう会](#)ではクリスマスにちなみ、ビーフシチューや温野菜、バターライスを作りクリスマス会を開こうという会でした。いつものように各自メニューごとのグループに分かれ、一人一人得意分野を活かしながらグループ内で分担作業されておりました。作業を通して日頃何を作って食べているか等、日頃の生活について話されていました。

今回、現地支援員の畑中さんが任期を終え石巻を去るということで、畑中さんにとって最後の男のあそぼう会でもありました。送迎の車内では、不安と不満、寂しさが垣間見えるお話しをされていたメンバーさんもいらっしゃいました。もちろん畑中さんが石巻の復興支援に尽力されたことありますが、地域におけるひとりの人・ひとつの社会資源がなくなるインパクトはとても大きいんだな、と感じました。

私もまだまだ駆け出しなので、畑中さんには日々の仕事の悩みなどを聞いていただいたり、アドバイスを頂き、支えてもらっておりました。畑中さんお疲れ様でした、そして本当にありがとうございました！またお会いできる日まで！

乾杯をして、自分たちで作った料理を皆で食べる。当たり前のようなことかもしれませんが、最も幸せなことのひとつなのかもしれません。



## 3. 災害支援チームからのお知らせ



### 【1. 大切なお知らせ】



11月8日災害支援チーム会議において



## 協力員募集終了

と決まりました

2011年3月11日の発災以来6年間にわたり  
石巻をはじめ、近隣の被災地において  
ご支援ご協力をいただきましたみなさま

心より感謝申し上げます



### 【2. 災害支援チーム会議開催のお知らせ】

次回会議日程

3月会議 日程調整中！！

時間＝19：00～21：00 場所＝於協会会議室

### 【3. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』、  
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』、  
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』の  
販売を行っています！

発災から2011年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011年10月から2012年12月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯



支援・市民活動支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅡ』に、2013年1月から2014年3月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

ボタンⅠ:URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=45](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45)

ボタンⅡ:URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=47](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47)

ボタンⅢ:URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=54](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54)

#### 【4. facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

#### 【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。

URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>





#### 4. 災害支援ニュース発行のお知らせ

次回発行予定 2月下旬

#### 5. あとがき

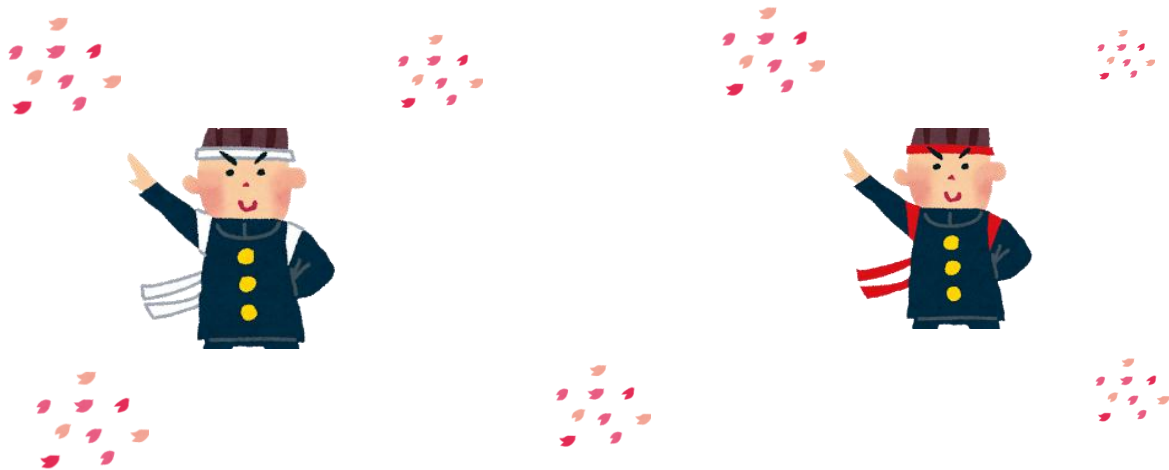
災害支援チーム事務局から

編集担当 富永

この活動には、たくさんの協力者がいてくださり、成り立っています。そして、現地で支援活動を行っている職員の皆さんの働きは、支援者としての根幹ではないかと思えます。

私は、災害支援に関わりたいと先輩SWに相談した時に「復興するまで関わる心構えはあるの？」と問われました。その答えは、今も模索中です。でも、「忘れない・つながり続けること」ではないでしょうか。

畑中さん、お疲れ様でした。最初の1年間一緒に時間をともにしたことは、宝物です。石巻での経験は、きっとこれからの人生の大きな糧となると信じています。応援しています。  
フレーフレー♪ はたなかさん ♪



東日本大震災 MSW 災害支援ニュース  
平成 29 年 1 月 30 日第 6 巻(第 10 号)  
作成 日本医療社会福祉協会  
災害支援チーム事務局